

第23回近畿大学中央図書館貴重書展

絵を楽しむ貴重書展

日時:2016年11月9日(水)~15日(火)

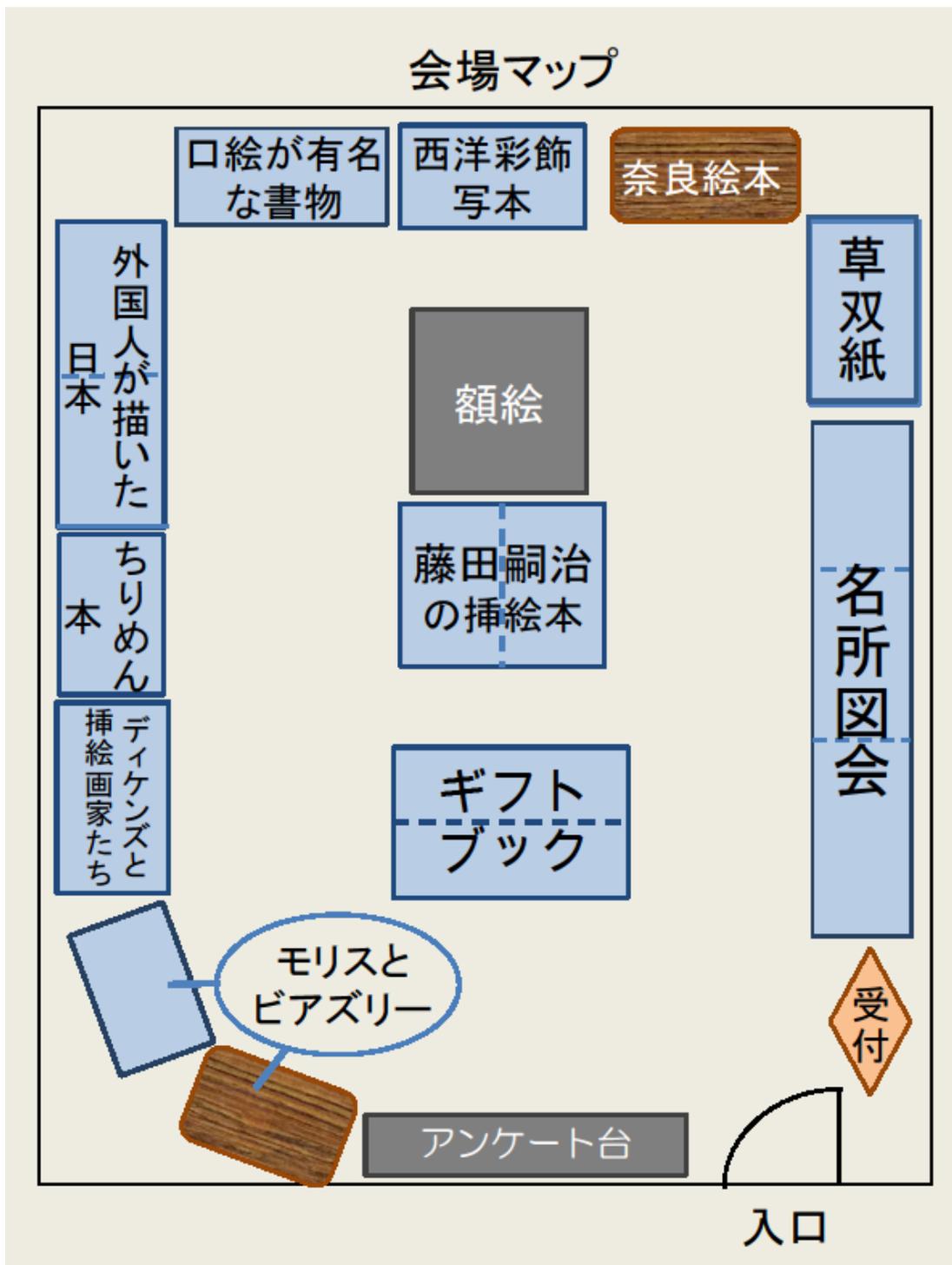
10:30~19:00 (土・日曜日は17:00まで)※入場無料

場所:近畿大学中央図書館 2階 第1演習室

*会期中、一部の作品については、展示ページを日替わりでご覧いただけます。

- * - * - * - * - * - * - * - 展示目録 - * - * - * - * - * - * - * -

会場マップ



➤ 名所図会

- * 竹原春朝齋画 秋里籬島著『都名所圖會』全6巻 皇都 天明6(1786)年
安永9(1780)年に刊行された『都名所図会』の再版。多彩な観光都市である京都の名所案内記として出版されたもの。竹原春朝齋は、大坂の浮世絵師。秋里籬島とコンビを組んで著した『都名所図会』を皮切りに、次々と名所図会を出版した。
- * 竹原春朝齋画 秋里籬島撰『大和名所圖會』全6巻7冊 浪華 寛政3(1791)年
秋里籬島は、京都の俳人。竹原春朝齋の画による『都名所図会』の大ヒットにより、全国各地をまわり多数の名所図会を出版した。本書は、大和国足田村の地誌研究家、植村禹言の遺志を継ぎ、秋里籬島がその草稿を得て撰じたものである。
- * 丹羽桃溪画 秋里籬島著『河内名所圖會』全6巻 皇都 享和元(1801)年
丹羽桃溪は、大坂の浮世絵師。蒔閨月に絵を学び、大坂の銅山における銅の採掘から精錬までの諸工程を描いた『鼓銅図録』などで知られる。『河内名所図会』は、河内国(現大阪府東部)を描いた名所図会である。
- * 蒔閨月編画 秋里籬島撰『伊勢参宮名所圖會』全5巻・付2巻 大坂 寛政9(1797)年
蒔閨月は、大坂の浮世絵師。版元の千草屋を営んでいたが、浮世絵師である月岡雪鼎への弟子入りを前に店を他人に譲った。『伊勢参宮名所図会』は、江戸時代の伊勢参宮の道中の様子や名所旧跡、伊勢神宮の祭祀、神事について挿絵入りで案内したもの。
- * 山野峻峯齋等画 岡田清編 田中芳樹校 頼杏坪等訂『藝州巖島圖會』全10巻
大坂 天保13(1842)年
図版を主に描いた山野峻峯齋は、広島藩の御用絵師として活躍した。編者の岡田清は、安芸広島藩士の国学者で、私塾で漢字、和学を教えたのち、東京に出て神事や陵墓の管轄を行う神祇官として一時奉職した。本書は、『巖島図会』5巻と『巖島宝物図会』5巻からなる巖島神庫蔵版である。
- * 松川半山・浦川公佐画 曉鐘成編『西國三十三所名所圖會』全8巻 大坂 嘉永6(1853)年
当初は全10巻の出版を予定していたが、最終巻の8巻でも8番目の寺である長谷寺までとなり、途中で終了している。
- * 曉鐘成画『澱川兩岸勝景圖會』全2巻 京都 文政7(1824)年
曉鐘成は、江戸時代の大坂の浮世絵師、読本作家。江戸時代後期に流行していた名所図会を数多く描いたことで知られる。本書は、葛飾北斎の絵入り本『隅田川兩岸一覽』を模倣した図会である。見開き図版は全て連続しており、つなぎ合わせると長大な淀川(澱川)兩岸の図となる。

- * 松川半山画 暁鐘成編『淀川兩岸一覽』全4巻 京都 文久1(1861)年

松川半山は、江戸時代後期から明治初期にかけて大坂で活躍した浮世絵師。本書は江戸時代後期の、京都から大坂を流れる淀川周辺の景勝地を中心に収録した船旅の案内書である。

➤ 草双紙

- * 鳥居清満筆『分福茶(ちや)釜』[江戸] 全2巻 江戸時代後期

日本の昔話「ぶんぶく茶釜」を題材とした黄表紙。一般によく知られている「ぶんぶく茶釜」の筋書きとは異なる。黄表紙とは、安永4(1775)年から文化3(1806)年頃まで、江戸で出版された黄色い表紙の絵入り小型本のことをいう。

- * 山東京伝撰・画『奇妙圖彙』東都 享和3(1803)年

人間の姿、形を様々な文字に見立てた文字絵や、身近な道具を使って全く別のものを描いた遊び絵を集めた本。山東京伝は、浮世絵師北尾政演としてデビューし戯作界の第一線で活躍した。

- * 葛飾北斎画『北齋女今川』[江戸] 江戸後期頃

「女今川」は、南北朝時代の武将今川貞世(了俊)が弟の仲秋にあてた家訓書「今川状」の形式にならって作られた女性用の教養書である。『北斎女今川』は、「女今川」から多くの派生作品が作られた中で誕生した類書のひとつ。

- * 竹原春朝齋画『鳥羽繪欠び留』大坂 寛政5(1793)年

「鳥羽絵」は、『鳥獣戯画』の作者と伝えられる鳥羽僧正覚猷の名から発したもののらしく、江戸中期に大坂で流行った滑稽な庶民の絵。本書は、竹原春朝齋の自画作でユニークな発想が面白く、いかにも漫画的な本である。

➤ 奈良絵本

- * 『伊勢物語』全2巻 江戸前期頃書写

『伊勢物語』は、平安時代前半に成立した歌物語。在原業平をモデルに、恋愛や交友などのさまざまな内容が、和歌を中心にして語られる。奈良絵本『伊勢物語』には、嵯峨本『伊勢物語』の挿絵を真似たものが数多く作成されたといわれている。本書の挿絵も、嵯峨本の影響を強く受けたと思われる。

- * 『ふんしやう』全3巻 江戸前期頃書写

御伽草子の代表作『文正草子』を奈良絵本に仕立てたもの。正確な制作年はわからないが、縦30cm以上の特大型、毎半葉(各ページ)10行、挿絵と詞書が完全に分離していることから江戸前期頃の制作と思われる。

➤ 西洋彩飾写本

* 『聖務日課書』 フランダース 1450年頃写

15世紀中期の彩飾写本。司祭又は修道士たちの信心用に用いられたと思われる。各章の始まりには、人物の肖像や花鳥などの絵が金銀その他の極彩色で描かれており、さらにキリストや聖母マリア、聖人などをテーマにしたアーチ型の細密画が描かれている。

* 『時祷書』 パリ 1490年頃

時祷書とは、中世において、聖職者でなく一般のキリスト教信者によって用いられた日常のお祈りの文章を記したもの。聖務日課として定められた定時課の際に捧げられる祈りや、祝祭日を示した教会暦、死者のための祈りなどから構成されている。印刷本以前の時代、時祷書はもっとも広く流布した書物であった。

➤ 口絵(扉絵)が有名な書物

* ホップズ『リヴァイアサン』 ロンドン 1651年

おそらく哲学史上最も有名な口絵には、体が無数の人間が寄り集まってできた巨人が描かれている。リヴァイアサンとは、『旧約聖書』『ヨブ記』に登場する巨大な海の怪物のことであり、著者は絶対的支配権をもつ国家をそれに例えた。

* ベーコン『学問の尊厳と進歩』 改訂英語版 オックスフォード 1640年

扉絵には、船が新しい大洋に向かって船出しようとしている絵が描かれており、「もっと先へ、もっと向こうへ」、「知識に限界はない」というベーコンの考えを象徴した絵といえる。

* ヴァレニウス『日本王国誌』 アムステルダム 1649年

口絵は銅版画で、着物を着た3人の娘たちが日本地図を広げるそばで著者自身が懸命に筆を走らせている様子の絵、その上には、大名たちが将軍に謁見している場面を想像して描いたと思われる絵が描かれている。

➤ 外国人が描いた日本

* ミッドフォード『昔の日本の物語』 第2版再版 ロンドン 1893年

ミッドフォードが、日本滞在当時から書きとめていた日本の風俗風習や、「花咲かじいさん」「ぶんぶく茶釜」「狐の嫁入り」などの昔話をまとめたもの。特に、赤穂浪士の物語を西洋に初めて紹介したことで知られている。

* オールコック『大君の都』全2巻 ロンドン 1863年

オールコックが、外国人として初めて富士山に登頂した様子が詳細に記されている。カラーを含む石版図版のほか、挿絵が多数収録されており、その多くが著者によって描かれている。

* レガメー挿絵 ギメ『日本散策』パリ 1878年

日本に宗教を調査するため、ギメは画家のレガメーと各地を旅行した。その旅行を記録したものの。第1巻には横浜、鎌倉や江ノ島、第2巻には東京や日光の紀行文がレガメーの挿絵入りで収められている。

* レガメー『日本のイメージ』パリ 1903年頃

『東京の学校の図画と図画教育』(1899年)、『日本』(1903年頃)の挿絵を中心に一般向けに編集したもの。九代目市川團十郎の肖像など、著者の手による245点のデッサン図版が含まれている。

* バヤール他挿絵 アンベール『幕末日本風俗図絵』全2巻 パリ 1870年

多くの挿絵が収録されているが、直接取材して描いたのではなく、日本で刊行された『江戸名所図会』などの図版を、エミール・バヤールなどフランスの画家がアレンジしたものが含まれている。

[参考展示]

* バヤール他挿絵 ユゴー『レ・ミゼラブル』全5巻 [パリ] [1879-1882年]

初版は、1862年にブリュッセルとパリで同時刊行された。本書は、分冊刊行された版を5巻に製本したもの。ミュージカルのポスターなどで有名なコゼットの挿絵は、大衆紙の挿絵で活躍したエミール・バヤールによる。

➤ ちりめん本

* ラフカディオ・ハーン『日本昔噺』5冊 東京 1898-1925年

ハーンは、長谷川武次郎が刊行したちりめん本に5作品を残している。挿絵は、鈴木華邨、新井芳宗が描いた。奥付に絵画印刷者、文字印刷者の名が記されている。当時、奥付に刷師の名前があることは珍しく、出版者の長谷川武次郎が職人を評価していたことがうかがえる。

・THE BOY WHO DREW CATS(らくがき小坊主)明治 31(1898)年 絵: 鈴木華邨

・THE GOBLIN SPIDER(お化けぐも)明治 32(1899)年 絵: 鈴木華邨

・THE OLD WOMAN WHO LOST HER DUMPLING(だんごをなくしたおばあさん)

明治 35(1902)年 絵: 鈴木華邨

・CHIN-CHIN KOBAKAMA(ちんちん小袴)明治 36(1903)年 絵: 鈴木華邨、新井芳宗

・THE FOUNTAIN OF YOUTH(若返りの泉)[第2版] 大正 14(1925)年 絵: 新井芳宗(?)

➤ 藤田嗣治の挿絵本

- * 藤田嗣治画 『芭蕉とその弟子のハイカイ』 パリ 1936年
松尾邦之助とスタイニルベル＝オーベルランの共訳と解説による、松尾芭蕉、服部嵐雪、榎本其角、向井去来らの句の仏訳。藤田が描いた挿絵は、いずれも色彩鮮やかな印刷物である。表紙の菊のカットは銅版画家の長谷川潔、「日本叢書」の題字は俳人高浜虚子の手によるもの。
- * 藤田嗣治画 イヴァン&クレール・ゴル『嫉妬の歌』 パリ 1926年
ドイツの詩人であるイヴァン・ゴルと彼の妻で作家のクレール・ゴルとの共著詩集。巻頭にある肖像画は、藤田が描いたイヴァンとクレールの姿である。
- * 藤田嗣治画 『日本昔噺』 パリ 1922年
藤田が背表紙に漢字で「日本昔噺 藤田嗣治」と書き、表紙と裏表紙には能面を描いている。挿絵は、フラットで鮮やかな色面を表現できるステンシル染め(ポショワール)である。
- * 藤田嗣治画 キク・ヤマタ『日本八景』 パリ 1927年
アンドレ・デルプーク出版社の「旅への誘い」シリーズの1冊。フランスに暮らすキク・ヤマタが文章を書き、フジタが絵を描いた2人の共作で、日本の代表的な観光地を紹介したもの。

[参考展示]

- * 山本芳翠画 ゴーティエ『蜻蛉集』(仏訳古今和歌集) パリ [1884年]
フランスの女性作家ジュディット・ゴーティエによる『古今和歌集』などの翻訳詩集である。西園寺公望の仏訳をもとに、音節と韻をそろえてフランス語の5行詩に訳している。挿絵は、当時パリで創作活動をしていた画家の山本芳翠によるもの。

➤ ディケンズと挿絵画家たち

- * クルックシャンク挿絵 ディケンズ『オリバー・ツイスト』全3巻 ロンドン 1838年
ジョージ・クルックシャンクによる挿絵24枚が収録されている。クルックシャンクの画風は、多様かつ多彩で、その才能はエッチングという版画技法を通してみごとに発揮されている。
- * リーチ挿絵 ディケンズ『クリスマス・キャロル』 ロンドン 1843年
風刺雑誌『パンチ』で活躍していたジョン・リーチは、本書のために、手彩色の銅版画4枚のほか、小口木版画4枚を制作した。小口木版の彫版はW.J.リントンによる。
- * リーチ他挿絵 ディケンズ『鐘の音』 ロンドン 1844年
クリスマスという特別な日のために書かれた物語の挿絵を、ディケンズは特に親しい画家たちに依頼した。本書の挿絵は、『パンチ』の人気画家ジョン・リーチやリチャード・ドイル、『アリス』の画家として有名になるジョン・テニエル、ロイヤル・アカデミーの画家であったダニエル・マクリース、クラークソン・スタンフィールドが担当している。

* リーチ他挿絵 ディケンズ『人生の戦い：ひとつの愛の物語』 ロンドン 1846年
挿絵は、リーチのほか、ドイル、マクリース、スタンフィールドの4人の画家が担当している。

* ブラウン挿絵 ディケンズ『二都物語』 ロンドン 1859年
ハブロー・K・ブラウンは、『ピクウィック・クラブ』の挿絵画家として選ばれた後、ディケンズの愛称「ボズ」に合わせて「フィズ」と名乗り、よき相棒として多くの作品に挿絵を描いた。

➤ モリスとビアズリー

* モリス『ケルムスコット・プレス設立趣意書』 ハマスミス:ケルムスコット・プレス 1898年
ケルムスコット・プレスは、モリスが晩年に設立したプライベート・プレス(私家版印刷所)。本書は、ケルムスコット・プレス最後の刊本。口絵は、バーン=ジョーンズの絵に修正が加えられたものが使われている。

* ワーズワース『霊魂不滅のうた』 ロンドン:エセックス・ハウス・プレス 1903年
ケルムスコット・プレスにならって設立したエセックス・ハウス・プレスの「名詩シリーズ」14篇の1篇。クレインが手採色の口絵を描いている。

* ビアズリー他挿絵『イエロー・ブック』 ロンドン 第1-5巻 1894-1895年
『イエロー・ブック』の美術主幹をつとめたビアズリーは、挿絵、装丁デザインはもちろん編集にも参加した。黄色の厚紙に黒一色で描いたビアズリーの奇抜かつ斬新な表紙は、デカダン(退廃)派を象徴する雑誌として脚光をあびた。第5巻の裏表紙を最後に彼の作品は消え、以降芸術的精彩を失った『イエロー・ブック』は、13巻で終刊となった。

* ビアズリー挿絵 マロリー著『アーサー王の死』 全12冊 ロンドン1893-1894年
19世紀末美術を代表する挿絵画家ビアズリーが挿絵及び装飾デザインを手掛けた彼のデビュー作。ビアズリーはこの物語に、20点の挿絵のほか、各章の見出しや欄外の装飾など、500点を超える図像を描いた。挿絵は、ライン・ブロックという写真製版で印刷された。

➤ ギフトブック

* ラッカム画 バリー『ケンジントン公園のピーター・パン』 ロンドン 1906年
バリーが発表した私小説の中から、ピーター・パンのエピソードを独立させ1冊にまとめたもの。1906年12月に出版されると、この年最大のギフトブックになった。挿絵は、20世紀初頭を代表する挿絵画家ラッカムに依頼した。50点のカラー挿絵が収録されている。

- * ラッカム画 キャロル『不思議の国のアリス』 ロンドン・ニューヨーク 1907年
イギリスの挿絵画家ジョン・テニエルが初版の挿絵を担当した。1907年に著作権が切れると、7人も挿絵画家がアリスの挿絵本を続々と出版したが、最も評判が高かったのがラッカムの作品であった。

- * ラッカム画 シェイクスピア『真夏の夜の夢』 ロンドン・ニューヨーク 1908年
シェイクスピアを題材にして描いた妖精画集。40点の幻想的で美しいカラー挿絵は、数多くの挿絵を手がけたラッカムの作品のなかでも傑作といわれている。彼の描いた妖精たちは「ラッカマア・フェアリー」と呼ばれ、人気を博した。

- * ラッカム画 ポー『怪奇と幻想の物語』 ロンドン 1935年
12点のカラー挿絵と17点の白黒挿絵、さらに文中にも装飾が加わった豪華な本に仕上がっている。

- * デュラック画 キラー=クーチ再話『眠り姫、その他の物語』 ロンドン 1910年
『眠り姫』のほか、『青髭』『シンデレラ』『美女と野獣』を30点のカラー図版とともに収録した豪華本で、挿絵を担当したデュラックの署名が入っている。デュラックは、イギリスで活躍したフランス出身の挿絵画家。ラッカムとともにイギリス挿絵黄金期を牽引した。